

超精密加工技術の開発
(事後評価)

質問・意見

回答

A委員	技術的なノウハウについて確立をめざしたのですか？	このような加工技術の研究は当センターとしては初めてであり、まずノウハウを蓄積しなければ指導できないという事情がありました。また、鏡面加工ができる材料を増やせば用途が広がるのではという要望もあり、このような研究に取り組みました。
C委員	専用の加工機械を導入したとありますが、企業が使用している機械で加工できるのですか？	研究では新たに導入した機械を使用していますが、似たような機械であれば企業でも加工できますし、切削、研削についても機械の専門性はありますが、導入している企業もありますので、汎用性はあると思います。
	市販で精密、鏡面加工等できる機械もあるにもかかわらず、加工技術の研究をしているということは、それ以外で一般に使用されている機械でも加工できる技術を研究しているのですか？	機械を購入すればできることはありますが、使いこなすまで時間がかかるのが問題です。この研究では汎用の機械で加工できることを目指してきました。しかし、切削に関しては良い機械でないといけない面もあり、汎用性について弱い面もあったと思います。
B委員	県内企業の加工技術のニーズは何が多かったのですか？また、刃物の技術も重要だと思いましたが、どのようにしたのですか？	ニーズについては形状精度を良くする、研削では表面粗さ、鏡面をつくることが多くありました。刃物については研削砥石を加工物に合わせてアレンジし、研究を行いました。切削では安価な工具でも可能かどうかを確認したりしました。
C委員	鏡面仕上げ等は北上の金型研究センターでも研究を行っていますが、違いはあるのですか？また、金型以外に関しても磨き、鏡面加工の研究を行っているのですか？	当センターでは、どちらからと言うと大きな金型の加工を中心に行っている所が違います。また、金型以外では、機械の滑り面などの鏡面加工の研究を行っています。